



全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.8

C O N T E N T S

P.2-4 2014年度取組概要
2014年度後半期活動報告

P.4 新規加盟校のご紹介
神戸学院大学

P.5-6 大学インタビュー
創価大学／関西学院大学

P.7 FD徒然草 Part 7『蛇・縄・麻のたとえ』
龍谷大学 大学教育開発センター長 長谷川 岳史

P.8 入会のご案内／実践的FDプログラムのご案内

2014年度 取組概要

2014年度 幹事会

日時： 2014年6月14日(土)12:00～13:00

会場： 法政大学 市ヶ谷キャンパス

2014年度 総会・パネルディスカッション

日時： 2014年6月14日(土)13:00～17:00

会場： 法政大学 市ヶ谷キャンパス

◆ パネルディスカッションテーマ

アクティブ・ラーニングを支援する取り組み
～主体的な学びのための授業支援と教育力活用～

◆ パネリスト

太田 昌弘 氏、御厨 まりこ 氏（明星大学 明星教育センター）

Brent A. Jones 氏（甲南大学 マネジメント創造学部）

日向野 幹也 氏（立教大学 経営学部 BLP主査/GLP主査）

三浦 真琴 氏（関西大学 教育推進部・教育開発支援センター）



2014年度 第1回幹事校ミーティング

日時： 2015年1月14日(土)12:30～13:00

会場： 立命館大学 東京キャンパス・衣笠キャンパス

2014年度 第1回会員校ミーティング

日時： 2015年1月14日(土)13:00～14:00

会場： 立命館大学 東京キャンパス・衣笠キャンパス

2014年度 懇談会企画

日時： 2015年1月14日(土)14:00～16:30

会場： 立命館大学 東京キャンパス・衣笠キャンパス

テーマ： A) 教学マネジメントからみたIR (Institutional Research) による教育改善
B) 教育のオープン化に関する各大学の取組
C) 学生・職員・教員の協働による学生参加型FDについて

2014年度 地域別企画(東日本地域)

日本大学 戦略シンポジウム「～教育のオープン化」の「いま」と「これから」～(共催)

日時： 2015年3月28日(土)13:00～17:30

会場： 日本大学会館 大講堂



2014年度 地域別企画(西日本地域)

立命館大学 第1回教学実践フォーラム「Aaron Sams氏講演会: Flipped Learning」(共催)

日時： 2014年5月22日(木)13:00～15:00

会場： 立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスホール

2014年度 後半期活動報告

2014年度懇談会企画 開催

立命館大学 教育開発推進機構

土岐 智賀子

2015年1月14日(水)にJPFF加盟校による第4回懇談会が開催されました。この懇談会では、各大学における取り組みの改善・発展の一助とすることを目的とし、毎回、事前にテーマを決め、テーマに関連する各大学における課題やグッド・プラクティスなどを共有しています。今回も関東、関西の会場それぞれ3グループに分かれて実施し、各グループでは活発な議論が交わされました。各グループでの懇談の後には、テレビ会議システムを利用して、懇談会では出された内容を報告し合い、情報共有を図りました。今回も各自が自大学への取り組みへの具体的なアイデアやヒントを得た場となりました。

実施概要

日時: 2015年1月14日(月) 14:00~16:30
 会場: 関東会場 立命館大学 東京キャンパス
 関西会場 立命館大学 衣笠キャンパス
 (※テレビ接続)

テーマ

テーマA 教学マネジメントからみた IR (Institutional Research) による教育改善
 テーマB 教育のオープン化に関する各大学の取組
 テーマC 学生・職員・教員の協働による学生参加型FDについて

各グループ懇談概要

▶ テーマA 「教学マネジメントからみたIR (Institutional Research) による教育改善」

関 東

神奈川大学、北里大学、國學院大学、芝浦工業大学、中央大学、東京農業大学、
 日本大学、法政大学、明星大学、早稲田大学 (50音順、以下同様)

◆IRの導入状況と課題について

- 各大学においてIRの体制の構築中である。その中で、以下のような課題が抽出された。
- これまででも学内で様々なアンケートが実施されてきたが、全体としてどのようなデータがあるか把握できていない。また、それぞれのアンケートを教育改善の役立たせるためには紐付けをする必要がある。データを収集した後どこまで分析するかという課題を抱えている。
- 学年ごと、卒業生に対するラーニングアウトカムを測定するための調査について克服しなければいけない課題がある(質問項目、卒業生に関しては卒業後の調査の困難さなど)。
- IRと、FDとの関連、認定評価とのかかわりについて、今後も情報共有を進めながら検討していく必要がある。

関 西

関西大学、関西学院大学、京都産業大学、甲南大学、神戸学院大学、
 中部大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学

- 関東同様、IR体制の構築中である。IRに対する教員の意識改革が進まない中でどのように展開していくか、とりわけ学部・執行部の役割・職交替が頻繁に行われるという現状のなかで、継続性という課題がある。
- データに基づく計画策定・業務改善提案という文化を醸成していく必要がある。それがいないため、現状では、データ分析によって課題が明確になっているにも関わらず、なかなか改善に結びつかない。
- IR調査をする際に、目的、対象、定義等を定めておかないとデータがむやみに増えるだけで、分析に困難が生じ、課題を抽出したり、それをもとに改善案を提案するところまで至らないケースがある。
- IR調査をする際の、学生に対する説明責任などガイドライン作成という課題がある。

▶ テーマB 「教育のオープン化に関する各大学の取組み」

関 東

國學院大学、創価大学、東洋大学、帝京大学、日本大学、法政大学、立命館大学

◆授業時のICT活用について

- ICTの活用は、全大学で進められているが、手法、方略、教育効果について、各学部、教職員の中で十分な理解がされておらず、教育の質向上につながっていないという現状がある。教員の意識改革が必要であり、組織の課題としてそれらを促す働きかけを各大学で行う必要性がある。

◆教育のオープン化について

- 上記と同様に、教員において関心が薄く、理解不足という現状がある。どのように取り組んでいけばよいか、教育効果等について理解を促す取り組みが必要である。
- 準備・整備等の費用負担等に見合っているか。
- 私立大学の独自性を追求していくことが重要ではないか。
- JPFF加盟校の中で、授業コンテンツの共有ができないだろうか。

関 西

関西大学、関西学院大学、立命館大学

◆教育のオープン化のメリットについて

- 大学の広報になる。入学前教育、地域連携、TA研修、公欠の学生の授業支援への活用に有効等の意見が出された。ただし、教育のオープン化による効果がどうかは測定が難しいとの声も出た。

◆反転授業について

- 教員個人レベルでの関心が高まっているように見受けられる。実施に向けて教育支援センター等に相談が持ち込まれることが今後増加することが予想されるため、どのような支援が可能か、検討をし、情報共有を進める必要がある。

▶ テーマC 「学生・職員・教員の協働による学生参加型FD について」

関 東

参加大学 関東学院大学、東京農業大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明星大学

- 学生FDに参加した学生自身の成長がみられる。また彼女・彼らの活動そのものが教職員に対する刺激となり間接的なFDにもなっている。
- 各大学の共通の課題として、一部の学生の参画に留まっており、全学的な浸透には至っていない。そして、それを克服するために、学生FDの活動・活動成果が全学的に「見える化」する仕掛けが必要である。

関 西

関西大学、中部大学、立命館大学、龍谷大学

- 「学生FD」という用語が論者によって異なり、混乱を生じさせている。
- 学生が授業を作っている事例、学生の意見を教職員に伝え、議論する制度（学生、教職員による協議会の開催）、学生の声を取上げる仕組み（モニター制度など）、ピア・サポーター団体の協働による学びのコミュニティ作りといった、学生FDという名称ではないものの、FDにつながる取り組みについて報告を行った。
- 授業終了時に実施されている教員アンケートが、現状では教員評価にとどまってしまう、FDに寄与するために機能していない。

新規加盟校のご紹介

神戸学院大学

◆全国私立大学FD 連携フォーラムへの期待

大学を取り巻く環境や学生の資質が大きく変化していくなかで、次世代を担う人材の育成に係る大学への期待がますます高まっています。本学では、2012年学校法人神戸学院が創立100周年を迎えました。2016年には大学創立50周年を迎えます。2015年度よりグローバルコミュニケーション学部を新設し、9学部・8研究科となり、学生数1万人を擁しております。本学の建学の精神である「真理愛好、個性尊重」を具現化し、一層独自の魅力ある大学にしていくため、教員の教育活動支援を通じた大学の教育力の向上、学生への質の高い教育の提供を行い、学生の満足度の向上と成長を強力に促進していきたいと思っています。貴フォーラムでは、FDに関する全国の先進他大学との交流によるさまざまな学びを得ながら、本学からも情報発信を行い、相互研鑽を行っていききたいと考えています。

◆学内のFD 実践紹介

本学では教育開発センターが中心となり、さまざまなFD活動を進めています。新任教職員向けの研修会や学部FD委員との懇談会を催して、新任教員の早期の定着を図っています。前期・後期において授業公開・授業改善アンケート、学生とのFD懇談会、外部講師を招いての年2回のFDワークショップや全学または学部別FDセミナーの実施を行なっています。



FDワークショップの風景



学部FD委員と学生の懇談会

大学インタビュー

▶創価大学

学生の成長につながるFD活動

創価大学 副学長・学士課程教育機構長

寺西 宏友



創価大学は本年、創立 45 年の佳節を迎えます。本学は草創の頃より学生第一の大学を標榜し、学生自身が様々な自主的な勉強会や講演会を開き、相互研鑽を重ねる向学の気風を培ってきました。その中には、今でいうところの学生 FD と目される取り組みも多々見られました。今もこの伝統は受け継がれ、多くの学生が主体的に大学運営、後輩指導に情熱を燃やしております。

大学の組織的なFDへの取り組みは、2000 年に全学的にFDを推進する機関としての教育・学習支援センター（通称：CETL）の開設を嚆矢とし、本格的に開始されました。その後、2008 年のFDの義務化に対応し「教員の教育研究活動の向上を目的」とした全学FD委員会を組織し、学部レベルのFD活動を支援しつつ、大学全体の教育力向上を進める体制の整備を行いました。

以来、全学 FD 委員会は 2~3 年のスパンで取り組むFD活動の目標を設定し、全学的な FD に取り組んでおります。初めて全学 FD 目標として 2008 ~ 2010 年度にかけて「授業外学習時間向上 3 ヶ年計画」を掲げ、単位の実質化に向けた試みをしました。これは、セメスター終了時に施行する授業アンケートでの授業外学習時間を問う設問で、成果をはかる試みでした。3 年間の取り組みで、全授業の課外学習時間の平均を 1 時間に接近させることができました。さらに、2011 ~ 2012 年度には大学教育の質保証に資する新たな取り組みとして、「シラバスのより一層の活用・充実による教育の質保証」を目標として設定し、受講のガイドとなりうるシラバス作成に取り組みました。さらに 2013 年度からの 2 年間の目標として、「シラバスの到達目標の共有化による授業改善」をたてました。各授業で「到達目標」の適正化→授業での取り組み→学生の到達度測定→シラバスの改善という「授業の改善サイクル」を着実に回す、本学における教育の内部質保証システムの構築に取り組むことを提案し、各授業におけるラーニングアウトカムの達成度を測定する試みを行っています。

また全学 FD 委員会では、毎年、学内の教職員のみならず、学生や学外の大学教育関係者にも開かれた FD フォーラムを開催しています。加えて、2010 年に共通科目運営センターを母

体に、CETL とワールドランゲージセンター（通称 WLC）を統合し、学士課程教育機構を創設しました。この学士課程教育機構が主催する形で、ほぼ毎月のように様々なテーマの FD セミナーを全学に提供しています。

さらに、学士課程教育機構では 2013 年秋に、中央教育棟 2 階のラーニング・コモンズ「SPACE」を拠点とする総合学習支援センターを設立しました。こうした弛みない FD 活動の展開を背景に、2014 年度には、アクティブラーニングの深化と学習成果の可視化をテーマとする文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に採択されました。

このような本学のFD活動の取り組みを進める中、JPFF が提供するオンデマンド講義を、CETL が小単位の学習会で活用しています。加えて、JPFF の活動を通じた様々な会員校との情報交流は、本学の FD の方向性あるいは位置を確認するうえでとても有益です。本学は次年度も、任期のある幹事校をお引き受けすることとなりました。日本最大規模のFD組織であるJPFFの一員として、皆様のご指導のもと、さらにFD推進に尽力して参る決意であります。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。



ラーニングコモンズSPACEの風景



FD フォーラム (2014 年 7 月)

▶ 関西学院大学

関西学院大学におけるFD活動と 全国私立大学FD連携フォーラムへの期待

関西学院大学 学長
村田 治



本学は2014年9月に125周年を迎えることができました。同窓生をはじめとする関係各位のご協力により、中央講堂(125周年記念講堂)の建て替えを行ない、その講堂内に本学では3番目のコモンスを設置しました。本学では、コモンスが共同学習やアクティブラーニングなど、新しい教育のかたちを発信することになると考えています。こういった取り組みを実質化するためには、教職員がFDやSDに取り組むことによって、教育力を強化し、教育の質を高めることが必要不可欠であると考えます。

本学では、2010年4月に総合教育研究室と情報メディア教育センターが統合され、高等教育推進センターが設置されました。この高等教育推進センターは、「教育力を強化し、教育の質を高めることにより、教育の一層の充実・発展に寄与すること」を目的としています。今回は、高等教育推進センターが中心に取り組んでいるFDの実践事例として、「学生による授業調査」をご紹介したいと思います。

本学では、全学的なFD活動の展開を目的として、2005年度から全学的に統一した調査項目と調査方法により、「学生による授業調査」を実施しています。加えて、調査実施後も改善に向けた取り組みを行うことができるように、授業調査の調査項目や実施方法について、適宜見直しを行っています。具体的には、高等教育推進センター内にある教育力向上企画専門部会で原案を作成し、各学部・センター等から選出された委員が出席する教務委員会等において、全学的に決定をしています。

調査方法はすべて無記名式で実施しており、科目提供部署である各学部・センター等が、開講科目について、一定の基準でマークシート方式もしくはWeb方式を選択し、併せて授業担当者の希望により自由記述方式を加えて実施しています。調査項目は、「学生自らの学習評価」、「教員の授業評価」、「履修の心構えや授業環境の評価」の3つのカテゴリーに分かれています。また、調査結果については、各授業担当者に送付し、授業担当者から調査結果をもとに、授業における改善点に関するコメントや効果のあった取り組み例等を提出してもらうことや、調査結果のマクロ分析や各学部・センターからの総評を掲載した「『学生による授業に関する調査』

報告書」を作成するなどにより、組織的な改善に努めています。このような組織的な取り組みの積み重ねが、教育の質の向上に繋がっていくと考えます。

最後になりましたが、全国私立大学FD 連携フォーラムへの期待を申し上げます。本フォーラムは、私立大学が地域の枠を越えて連携している枠組みであり、本学にとっても、他大学のFDの取り組み状況の情報収集や大学が共通して抱えている課題を話し合う貴重な機会となっています。こういった機会を活用し、本学で取り組んでいるFDの取り組みが、他大学におけるFDの取り組み事例や課題の共有を通じて、どのような形で教育の質の向上に繋がっているのかということ、新たな知見として確認し、今後の本学での取り組みに活用できることを期待しています。

さらに、本フォーラムは、「所属する総学生数が概ね8千人以上」の「私立大学」という、2つの特徴を持った組織体です。例えば、これまでも実施している各大学の授業評価方法の共有に加えて、授業外での学習時間や講義目的の到達度など「学生自らの学習評価」の項目等について、フォーラムで統一できると、各大学との比較が可能であり、またそれが各大学のFDやIRに繋がっていくのではないかと考えます。そのような取り組みが、本フォーラムで実現できることを期待しています。



FD徒然草 Part 7

蛇・縄・麻のたとえ

龍谷大学 大学教育開発センター センター長
長谷川 岳史



1987年に入学してから、学部生、大学院生、教員と立場は変わったものの、未だ卒業できずに30年近く龍谷大学にいる。仏教を専門としている私が学生時代から常に心にとめていた話がある。インドで5世紀に書かれた『摂大乘論』という仏典の中にある「蛇(だ)・縄(じょう)・麻(ま)のたとえ」である。内容を簡単にまとめると以下になる。

ある人が暗がりの中を不安に思いながら歩いているとき、細長い物を見て「蛇だ!」と思い込んで恐れを生ずる。しかし、いつまでたっても動かないので恐る恐る「蛇」と思い込んでいた物をよく見ると、それは「縄」であった。さらに「縄」をよく見ると、それは「麻」を縫い合わせた物であった。

仏教では蛇は「煩惱」のたとえにされるので蛇好きの方には申し訳ないが、この話を仏教的に説明すると、「蛇」と思い込むのが迷いの見方(仏教用語:遍計所執性)、「縄」と気づき(仏教用語:依他起性)、「麻」と見抜く(仏教用語:円成実性)のがさとの見方ということになる。同じ物を見ていても、「蛇」と思い込んだままでいるか、「縄」と気づき「麻」と見抜くかによって、天地の差が生じるということと同時に、迷いからさとりへのプロセスも明示されている。

振り返ってみると、学生時代は、授業やレポート、論文、学生生活など、教員になってからは、授業の仕方、研究のあり方、学内等の役職などに対し、はじめは勝手な「蛇」を思い描いて身構えていたものの、経験を積み、エビデンスを蓄積していくごとに、いつしか「縄」と気づき「麻」と見抜く力が身についていったように思う。

FDについても同じで、これまで4年間、大学教育開発センター長を務めてきたが、着任当初は何をどうしたらよいかかわらず、他大学の状況や新たな答申類に関する情報が入るたびに、毒蛇のいる洞窟に迷い込まれた感覚になっていた。ヘタに灯りをつけると蛇が落ちてくるかもしれない。かといってこの状況を打破しないわけにはいかない。虚構の「蛇」の退治法を見いだすために七転八倒していた。FDが「縄」と気づき「麻」と見抜くことが何となくで

きるようになったのは最近である。

昨今の大学教育をめぐる動向はめまぐるしく変化していると言われる。新たな答申類が出るたびに、今度はどんな新しいキーワードが提示されているのか興味津々で調べ上げられ、いつの間にかキーワードそのものが「最新の教育」とされていく。しかし、それは本当に新たな必要条件なのだろうか。中には「これまでやってきていること」や「すでに充実していること」、あるいは「そぐわないもの」を内容としているキーワードもあるはずである。動向を意識することは大事ではあるが見極めは必要である。目先のことにとらわれ、これまで作り上げてきた「縄」の再確認をおろそかにすると、「麻」も見失い、虚構の「蛇」を量産し、それを退治するために徒労に終わることを目標とした議論を展開することになる。

私立大学の使命は、建学の精神とそれに基づく育成すべき人間像の具現化にある。教育・研究等はのための不断の活動である。つまり「麻」と「縄」の関係である。大学教育をめぐる動向に右往左往して大学を無闇に「蛇の巣窟」にする必要はない。上質の「麻」を教・職・学が協力して縫い合わせ、より丈夫な「縄」にしていく日々の営みがFDである。FDの射程が拡がり続けているように思える今、そう自分に強く言い聞かせて、あと2年、役職を引き受けることにした。

最後になったが、「大学教育開発センター」は2015年度より「学修支援・教育開発センター」に名称変更する。また「究極の見える化」を実現した「和顔館(わげんかん)」も完成し大規模なコモンズも出現する。新種の「蛇」が出てこないよう念じている。



スチューデント、グローバル、ナレッジの3 コモンズからなる
「龍谷大学ラーニングコモンズ」

入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送でお送り下さい。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。

(年会費:5万円(2015年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。

詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

JPFF会員校

http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html

JPFF非会員校

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/fd_p/fd_program.html



利用申込について

利用期間は1年間となります。(5月利用開始、翌年3月末終了)

上記のウェブサイトより「利用申込書」をダウンロードし、事務局へお送り下さい。

利用申込は随時受け付けておりますが、手続きのため、利用いただけるまでに約2週間かかります。

事務局校

立命館大学 教育開発推進機構 (事務局:教育開発支援課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8304 FAX:075-465-8318 e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp